

50年史年表

年	月 日	ICU日本語教育関係の出来事	その他の出来事
1953 昭和28	4月	日本語の集中的教育 1～4 (Intensive Japanese I-IV) 開始 * 留学生のための日本語教育開始。週27コマで1学期は12週間。夏学期(夏休みの期間)も含めて1年に4学期が行われた。各学期の間の休みは1週間で、学期中は祭日も休まなかった。 日本語教授法 開始 * スタッフ養成のため。 日本語集中教育 1～5 (Intensive Japanese I-V) 開始 * 秋学期より集中コースを1年間、3学期とし、その修了者のための2年目の上級コース(週9コマ)2学期を設けた。	ICU 開学 第1回 9月入学生 16名 入学
1955	30	日本語集中教育 初級日本語 (Elementary Japanese I-III) 開始 (1966年まで) * アメリカの大学からの交換留学生、JVA (Junior Year Abroad、現在の一年本科生 (OYR、One-Year-Regular) にあたる) などのための、週3日、6コマのコース。I～IIIで Intensive Japanese I をカバーした。新任のノンジャパニーズ・ファカルティも参加した。 日本語教育実習 開始 (1965年まで) * スタッフ養成のため。	
1956	31	日本語半集中教育 (Semi - Intensive Japanese I-III) 開始 (1972年まで) * 週2日、10コマ。Elementary Japanese より単位数の多いコースが必要となり、このコースが開設される。Intensive コースと教科書は共通で、約半分のスピードで授業が進んだ。クラスサイズは Intensive コースの約20名以下に対し約40 - 60名だった。コースの単位は卒業単位としては認められなかった。	
1957	32	日本語専修 (語学科) 開始	ICU 大学院 設置
1960	35	ICU日本語教育セミナー (10周年記念の行事) 開催 * 講演、パネル・ディスカッション、教材・教科書の展示等を行う。 10周年記念セミナーの報告書 発行	外国人のための日本語教育学会 設立
1961	36	4月	
1962	37	5月3 - 5日	

			<p>* ICU語学科日本語学研究室編『日本語教育のために』 英文タイトルは、Report of the 1962 Seminar for the Teaching of Japanese as a Foreign Language -- ICU</p>	ATJ (米国日本語教師協会) 設立
1963	38	9月1日	初級教科書 出版	ICU 開学10周年記念式典 開催
1964	39		<p>* ICU日本語研究室編 "Modern Japanese for University Students, Part I" 日本語特別教育 1~3 (Special Japanese I-III) 開始</p> <p>* 週3コマ、3学期。当初は、日本生まれで日本育ちの外国人学生対象のコース。後に帰国学生中心となる。しかし日本人に対する「日本語」の単位は文部省の規約により卒業単位として認められなかった。</p>	
1965	40		<p>上級日本語 1~2 (Advanced Japanese I-II) 開始</p> <p>* Intensive コースの2年目を、上級日本語と名称変更。</p>	
1966	41	9月25日	中級(前半)の教科書 出版	
1967	42		<p>* ICU日本語研究室編 "Modern Japanese for University Students, Part II" 2年目の日本語半集中教育 1~3 (Second-Year Semi-Intensive Japanese I-III) 開始 (1972年まで)</p> <p>* 週10コマ、3学期。</p>	
1968	43	9月25日	中級(後半)の教科書 出版	カリフォルニア大学と「交換学生プログラム」の確立に合意
1969	44		* ICU日本語研究室編 "Modern Japanese for University Students, Part III"	「交換学生プログラム」開始 ICUより10名、UCより17名
1973	48		<p>ICU夏期日本語講座 (ICU Summer Program in Japanese) 開始</p> <p>日本語 1~6 (Japanese I-VI) 開始</p> <p>* 秋学期より、Semi-Intensive、Second-Year Semi-Intensive の両コースを結合し、Japanese シリーズとして開始。スタッフも教科書も Intensive シリーズとは異なった。コースの単位は卒業単位として認められるようになった。</p>	
1984	59	3月30日 - 31日	<p>ICU日本語教育30周年記念シンポジウム 開催</p> <p>* 講演、分科会、VTRによる授業や教育機器の紹介、語学ラボの見学、教材・写真その他の展示、</p>	

			関係文献展示販売等が行われた。 『ICU夏期日本語講座論集』 発行開始 * 英文タイトルは Bulletin of the ICU Summer Program in Japanese この年以降、毎年発行。1990年発行の第7号より 『ICU夏期日本語教育論集』 と改題。 (英文タイトルも Bulletin of the ICU Summer Courses in Japanese Language と改題。)		
1986	61		春学期より日本語のコースはカレッジ・ワイド・プログラム (College-Wide Program) となる 秋、冬学期に Intensive コースのⅡ、Ⅲが出され、9月入学生は入学時に中級からの集中コースが取 れるようになる		
1987	62	2月26日	30周年記念誌 出版 * ICU日本語研究室編『あすの日本語教育の道を求めて—ICU日本語教育30周年—』 (凡人社)	FEP (Freshman English Program) に代わり、ELP (English Language Program) 開始	
1989	平成1	6月1日 7-8月	日本語教育研究センター設置準備室 発足 夏期日本語講座が大学の正式なプログラムとしてセンター設置準備室と国際渉外部の共催で行われる		
1990	2		夏期日本語講座 (ICU Summer Program in Japanese) を夏期日本語教育 (ICU Summer Courses in Japanese Language) に名称変更		
1991	3	1月1日 3月8日 3月31日	ICU日本語教育研究センター 発足 第1回 日本語教育ワークショップをセンター主催で開催 『ICU日本語教育研究センター紀要』 発行開始 * 英文タイトルは The Research Center for Japanese Language Education Annual Bulletin. この年以降、毎年発行。		
		12月10日	第1回 自然言語処理研究会をセンター主催で開催 * 翌年2月までに 2回開催。 ICU大学院比較文化研究科で日本語文化関係科目を開講		
1992	4	5月15日	第1回 日本語教育研究例会をセンター主催で開催 * この年以降、毎年数回開催。		
1994	6	1月28日	第1回 「コンピュータを利用した教育」勉強会 をJLP・センター共催で開催 * 同年に5回開催		

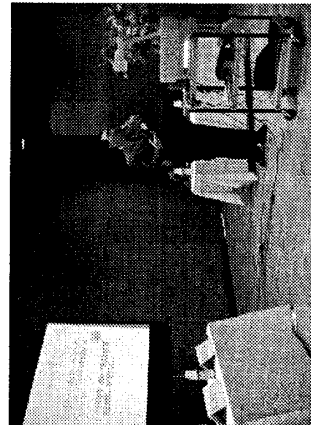
			ICU日本語教育40周年記念研究会開催 * シンポジウム、研究発表、記念講演等が行われる。 読み書き特別教育 (Special Course in Reading and Writing) 開始 (98年まで) * 話し聞き能力は中級後半のレベルだが、読み書き能力が充分でない学生のための科目。秋学期にのみ開講。	
1995	7	3月31日	40周年記念誌 出版 * ICU日本語教育プログラム・日本語教育研究センター編『日本語教育の課題 ICU日本語教育四十年記念論集』(東京堂出版) 秋学期より新カリキュラム 開始 * Intensive シリーズ、Japanese シリーズ、Advanced シリーズの内容、コマ数等を大幅に改編。 Japanese VIIを開講 (2000年春学期まで)。	
1996	8	6月 10月11日	帰国学生に対し、ニーズ調査を行う 初級教科書 出版 * 『ICUの日本語 初級1-3 Japanese for College Students: Basic Vol. 1-3』(講談社インターナショナル)	
1997	9	4月 9月	オーストラリア ビクトリア州へのテイーチング・アシスタント派遣プログラム 開始 日本語特別教育 (Special Japanese) のコース内容 改編 * Program A, B, C ができ、帰国学生全員が9月から授業を開始。	
1999	11	3月 4月	日本語教育海外教育実習パイロットスタディ 開始 日本語教育課程 (語学教育課程) 発足 * 語学教育課程 (JLP・ELP) が語学科と別組織となる。	ICU 創立50周年記念事業 開催
2000	12	3月 4月 9月	海外日本語教育実習 開始 新教師養成プログラム 開始 秋学期より新カリキュラム 開始 * Intensive シリーズ、Japanese シリーズ、Advanced シリーズの内容、コマ数等を大幅に改編。	
2002	14	3月	日本語教師養成プログラム証明書 発行開始	
2003	15	3月15日	ICU日本語教育50周年座談会 開催	

		<p>* 卒業生、元教員、現教員による座談会を行う。</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 1 開催</p> <p>* 水谷修・西原鈴子 対談 「『教えること』と『学ぶこと』」</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 2 開催</p> <p>* Clifford Hill 「Assessment in a Digital Age: A Model for English Language Arts」</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 3 開催</p> <p>* 宮川繁 「人文科学発展を目指すテクノロジー利用」</p> <p>学内日本語教育実習 開始</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 4 開催</p> <p>* W. M. Jacobsen 「読みのための言語構造の教え方 ―言語学と言語教育双方の観点から―」</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 5 開催</p> <p>* 川上郁雄 「年少者日本語教育の現状と研究展望」、斉藤ひろみ 「子供達が異なる言語・文化の中で学ぶということ ―ある中国帰国生徒の手紙から―」</p>
2004	16	<p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 6 開催</p> <p>* Merry White 「帰国子女再考：国際化からグローバル化へ」</p> <p>ICU日本語教育50周年記念レクチャーシリーズ 7 開催</p> <p>* シンポジウム「日本語教育の展望」、ワークショップ「日本語教育実践能力の育成をめぐる」</p>

《 参考文献・資料 》

- ◆ ICU語学科日本語研究室編『日本語教育のために Report of the 1962 Seminar for the Teaching of Japanese as a Foreign Language-ICU』国際基督教大学、1962年
- ◆ Charles W. Iglehart "International Christian University -An Adventure in Christian Higher Education in Japan", ICU, Mitaka, Tokyo, 1964.
- ◆ 語学教育調査検討委員会「教養学部語学教育プログラムの改革について ―中間報告―」1981年4月
- ◆ 語学教育調査検討委員会「教養学部語学教育プログラムの改革について ―最終報告―」1982年4月
- ◆ ICU日本語研究室 編『あすの日本語教育の道を求めて ―ICU日本語教育30周年―』凡人社、1987年2月
- ◆ 今田滋子「ICUにおける日本語教育・日本語教師養成の歴史」（講演レジメ）1989年9月
- ◆ 小出詞子著作編集委員会 編『日本語教育とともに ―小出詞子著作集―』凡人社、1991年6月

- ◆ C. W. アイグルハート『国際基督教大学創立史 ―明日の大学へのヴィジョン― (1945-63年) 一』国際基督教大学、1990年6月
- ◆ 国際基督教大学同窓会記念誌編集委員会編『卒業生のICU40年』国際基督教大学同窓会、1992年2月
- ◆ 国際基督教大学日本語教育プログラム・日本語教育センター編『日本語教育の課題 ICU日本語教育四十周年記念論集』東京堂出版、1995年3月
- ◆ 武田清子『未来をきり拓く大学 ―国際基督教大学五十年の理念と軌跡―』国際基督教大学出版局、2000年6月
- ◆ 中村妙子『ICUにおける日本語教育、日本語教師養成の歴史』（講演レジメ）2002年2月
- ◆ その他、『ICU夏期日本語講座論集』、『ICU夏期日本語教育論集』、『ICU日本語教育研究センター紀要』、JLP・センター会議事録、『国際基督教大学教養学部要覧』、International Christian University College Bulletin、『履修の手引き Course Offerings and Guide to Academic Regulations』等



2004年3月6日 ICU日本語教育50周年記念 シンポジウムおよびワークショップ

* 50年史資料は「50年史委員会」（メンバーは稲垣滋子・中村妙子・尾崎久美子・坪根由香里）がまとめたもの。資料のうち「学生数の推移」「教員の変遷」「事務職員の変遷」については坪根由香里が、「50年史年表」（付、参考文献・資料）については尾崎久美子を中心となって作成した。